

大阪代協。黒石会長がネパールの小学校へ援助

若い時代の渡航がキツカケ

机、イス、トイレの建設費など寄付

大阪代協の黒石光寿会長は、昨年12月27日、ネパール山間部の貧しい村にあるルトーカ小学校を訪れ、子供たちに文具とお年玉、学校に机やイス、屋根の修理および新しいトイレの建設等のための援助を行った。この活動は、大阪代協や阪神ブロック、あいおいニッセイ同和の代理店会の有志の協力を得て黒石会長がプライベートで行っているもので、今回が5回目の援助となる。



大歓迎を受ける黒石大阪代協会長(中央)

「とにかく一番貧しい学校へ援助すること」が黒石会長の目的だ。援助先の選定は、日頃世話になって

で1か月滞在したことが深いつながりとなった。その後、3、4年に1度の割合でトレッキングをしにネパールを訪問。数度の渡航のうちに小学校のPTA会長をしていただいた弟・博文氏との会話の中で、「せっかくなので、だから現地の子供たちへ何かお土産を持って行ってあげよう」という話が持ち上がったのが援助活動の始まりとなった。

「ネパールでは政府の手が届きにくい地域がたくさんあります。それまでもトレッキング中に寄って来た現地の子供たちにお菓子をあげたりしていましたが、もっと何か手助けできないかと考えていたときでした」

身近な人たちに声をかけると、衣類などダンボール箱4つがいっぱいになるほど集まった。15、16年前のことである。



地元の子供たち

いる日本の旅行会社代表のネパール人が現地でNPO活動(ESODEC)を立ち上げた。ネパール教育社会開発センター)をしていこうとあり、当初から援助先の学校を選んでもらっている。

代協からの資金援助は受けていないが、理事をはじめとする代理店有志の協力を得ている。「代協旗と日章旗を掲げることができればPR



感謝状

になると考え、理事会や阪神ブロックの方々に声をかけ協力をお願いしています」

こうしたことでもあって、前回(2011年)は東日本大震災発生年であるにもかかわらず、約35万円のお金が集まった。今回も28万円の援助金が寄せられた。そして、そのうちの17万円を学校に機・イスといった備品、屋根の修理、新しいトイレの建設のために寄付し、残金で子供たちのためにボールペン、ホッチキスなどの文具やタオル、先生・スタッフには

小学校では、先生4名、子供65名からの大歓迎を受ける中、黒石会長から子供たちにプレゼントとお年玉が手渡された。

「子供たちの喜ぶ顔を見ると、遠くまで足を運んだ疲れも吹き飛びます。今後の予定は具体的に決まっていますが、3年後あたりに行きたいですね」と結んだ。

ネパールの地元新聞に掲載!!



©GORKHAPATRA DAILY (左、翻訳) 日本から子供たちにプレゼントが届きました! 日本人の黒石光寿さんが、シンドゥリ郡クセソールドゥンザンタリムポートにあるルトーカ小学校の子供たちにボールペン、タオル、お年玉のプレゼントと机とイスの寄付、トイレを新しくすることを発表しました。

©RAJDHANI DAILY (右、翻訳) ネパールの小学校に援助が届きました! シンドゥリ郡クセソールドゥンザンタリムポートにあるルトーカ小学校に勉強している子供たちに日本人が学校に援助をしてくれました。この学校は、カトマンズから遠く貧しい村にあります。この村にINSURANCE AGENCY ASSOCIATIONの会長黒石光寿さんとESODECの会長D.M.ヒラヤンさんが来りました。日本から来た黒石さんが子供たちにボールペン、お年玉、タオルをプレゼントしました。そして学校の教室に机、イス、トイレを作ってくれたことを発表しました。この小学校は、ネパール政府の学校ですが、国から何も援助がないため、学校の運営をすることも大変な状況です。学校には、村の貧しい子供たちが65名勉強しています。今までESODECもネパールのいろいろな村に学校を建てたり、奨学金を子供たちに渡したり、協力しています。これからもネパールのために協力していきたいと言っていました。